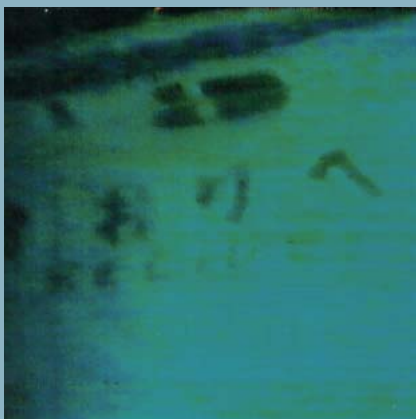


深海からの引揚作業

海洋調査船「へりおす」の引揚げ

1986(昭和61)年6月17日、清水港から北海道へ向けて処女航海中であった海洋調査船「へりおす」(50G/T)との交信が福島県相馬沖で途絶えた。海上保安部の調査で同船は水深230mの海底に沈没していることが判明。船主からの強い引揚げ要請があり、1987(昭和62)年9月から翌年7月にかけて、2回に区切って大水深からの引揚げ作業を行った。

作業は有人潜水艇「はくよう」による調査支援作業に始まり、ダイバーのSDC



(加減圧潜水球)およびDDC(船上減圧室)を利用した飽和潜水を実施。トランスジューサーとトランスポンダによる沈船位置の特定、その他相対位置の確認、アクアリフター船体取付け、ウインチバー

ジによる引揚げ方式、ワイヤーネットによる船体すくい揚げ方式、大水深の洋上4点係留ブイの設置など、当社の持つ高度な技術力を結集し、社会的に注目される中、同船の引揚げ作業を成功させた。